

小羊の婚宴

シリーズ～終末を生きる～

ヨハネの黙示録 19章

2018/10/7

これまでのおさらい

- 「屠られた小羊(キリスト)」によって始まる
 - 「七つの封印・ラッパ・鉢」> 神の主権
- 終末に人類を襲う患難
 - 災害・天変地異・戦争
 - 災害や戦争に伴う飢餓・疫病
- サタンの最後の攻撃
 - 「二匹の獣」: 世界を支配する組織+偽預言者
 - 「大淫婦」: 人類を惑わす最大の誘惑(富?)
- 終末の目的
 - 主を信じるか否か選別する(獣の刻印)
 - 最後の悔い改めのチャンス> 大量の殉教者

ヨハネの黙示録19章5節～

また、玉座から声がして、こう言った。「すべて神の僕たちよ、神を畏れる者たちよ、小さな者も大きな者も、わたしたちの神をたたえよ。」

わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた。わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。**小羊の婚礼**の日が来て、花嫁は用意を整えた。花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである。」

それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。

わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の霊なのだ。」

そして、わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、**白い馬**が現れた。それに乗っている方は、「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる。その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。また、血に染まった衣を身にまとっており、その名は「神の言葉」と呼ばれた。そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまとってこの方に従っていた。この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである。

また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の搾り桶を踏むが、これには全能者である神の激しい怒りが込められている。この方の衣と腿のあたりには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

わたしはまた、一人の天使が太陽の中に立っているのを見た。この天使は、大声で叫び、空高く飛んでいるすべての鳥にこう言った。「さあ、神の大宴会に集まれ。王の肉、千人隊長の肉、権力者の肉を食べよ。また、馬とそれに乗る者の肉、あらゆる自由な身分の者、奴隷、小さな者や大きな者たちの肉を食べよ。」わたしはまた、あの獣と、地上の王たちとその軍勢とが、馬に乗っている方とその軍勢に対して戦うために、集まっているのを見た。

しかし、獣は捕らえられ、また、獣の前でしるしを行った偽預言者も、一緒に捕らえられた。このしるしによって、獣の刻印を受けた者や、獣の像を拝んでいた者どもは、惑わされていたのであった。獣と偽預言者の両者は、生きたまま硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。残りの者どもは、馬に乗っている方の口から出ている剣で殺され、すべての鳥は、彼らの肉を飽きるほど食べた。

小羊の婚宴(5~10節)

- 花婿(キリスト)と花嫁(教会)の結婚式!
 - 終末の最終ステージの始まり
- キリストと教会との関係
 - 「イエスは言われた。『花婿と一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。』」マルコ2:19
 - 「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。」エフェソ5:25
- 旧約聖書においては
 - 人を男と女(夫婦)に創造された
 - 主なる神とイスラエルの関係:「妬む神」

小羊の婚宴(5~10節)

● 整えられた花嫁

- 「小羊の婚礼の日が来て、花嫁は用意を整えた。花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである。」19:8
- 「正しい行い」とはキリストを信じる信仰である
- 用意を整えて下さったのは屠られた小羊である

● 永遠に変わらないキリストとの結びつき

- 「小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」
- この時から、キリストと信じる者たちは、永遠に結ばれ、決して離れることはない!

キリストの再臨(11~16節)

- 天が開かれ、白い馬に乗った方が現れる
 - 「白い馬」は勝利者のしるし
- 裁き主として来られる
 - 「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる」11
- 全てを見通す目、全世界を支配する王
 - 「その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった…だれも知らない名が記されていた。」12
- 贖い主として、神の言葉(ロゴス)として
 - 「血に染まった衣を身にまとっており、その名は『神の言葉』と呼ばれた」13

キリストの再臨(11~16節)

- 「鋭い剣」で打倒し、「鉄の杖」で治める(15)
- 「**王の王、主の主**」として来られる(16)

キリストの再臨(11~16節)

- 「鋭い剣」で打倒し、「鉄の杖」で治める(15)
- 「**王の王、主の主**」として来られる(16)

初臨(2000年前)	再臨(終末)
人として来られる	神として来られる
身代わりに裁かれる	不義を裁く
しもべとして仕える	燃える目・多くの王冠
贖い主・神の言葉	贖い主・神の言葉
羊飼いのイメージ	鋭い剣と鉄の杖
死刑囚	王の王、主の主

再臨のキリストによる裁き(17-21)

- 最後の戦い(ハルマゲドン?)
 - 「わたしはまた、あの獣と、地上の王たちとその軍勢とが、馬に乗っている方とその軍勢に対して戦うために、集まっているのを見た。」19
 - **第6の鉢**:「汚れた霊どもは、ヘブライ語で「ハルマゲドン」と呼ばれる所に、王たちを集めた。」16:16
- 獣らは戦わずして火の池に投げ込まれる
 - 「しかし、獣は捕らえられ、また、獣の前でしるしを行った偽預言者も、一緒に捕らえられた。…獣と偽預言者の両者は、生きたまま硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。」20
 - **第7の鉢**:「神は大バビロンを思い出して、御自分の激しい怒りのぶどう酒の杯をこれにお与えになった。」19

終末のエピローグ

- 小羊の婚宴
 - キリストと教会は永遠に結ばれる
- 小羊の来臨
 - 王として地上に来られるキリスト
- 裁きの始まり
 - 「二匹の獣」とそれに従う者たち(最後まで悔い改めなかった人たちが)が裁かれる